

【1.体制】

事務6名、清掃スタッフ6名、レストランスタッフ3名、売店スタッフ4名の19名体制で臨んだ。

【2.取組内容と実績】**1. 2022年度事業報告**

2022年度は基本方針を「地域とのつながり、人と人とのつながりを大切にし、ニューノーマルな時代に踏み出そう」、Keywordを「つなぐ」とし、ポストコロナを見据え1年間取り組んできた。経営面においては、夜勤可能な看護師不足による病棟の縮小、3月、7月、12月に新型コロナウイルスによる院内クラスター発生により、総収益が約3億円（▲10.5%）減少し、当期利益においても対前年度を大きく下回った。

（1）病床の一部休床（128床→100床）

夜勤可能な看護師不足の影響から、9月1日より28床休床し100床での運用とした。許可病床数は128床のまま。それに伴い看護師の病棟体制を3→2病棟数に変更した。次年度は訪問看護ステーション開設などの検討を行う。

（2）中期事業計画の策定

12月の幹部・リーダー研修会において、中期事業計画策定に向け、方針毎（※右記の3.中期事業計画（2023～2026年度）に方針は記載）の4つのチームに分かれ協議を行った。研修会後もチーム毎で検討を行い、中期事業計画を策定した。

2023年度より4年間取り組んでいく。

（3）開院20年目に向けた取り組み

2023年3月1日で国立から済生会に経営権が移譲され20年目となる。コロナ禍中とあり、祝賀会などのイベントは開催せず、ホームページの全面リニューアルを行った。現在20周年記念誌の作成に取り組んでいる。

（4）地域に根差した活動

コロナ禍の3年間、地域に根差した活動が殆ど実施できなかったが、1月以降新型コロナウイルス感染が下火になりつつあるタイミングで、天草パールラインマラソン大会コースのボランティア清掃活動、大会本番のランナー救護支援活動を再開した。

（5）人事諸制度の改定

育児休業規程の改定、専門正職員制度の対象職種拡大などの人事制度の見直しを行った。育児休業規程の改定においては、男性の産後パパ育休創設の影響もあり、取得権利のある男性スタッフ6人中、4人のスタッフが育休を取得した。

2. 2023年度スローガンとキーワード**《スローガン》**

20年の歴史を大事にし、みすみスピリットをもって、新時代を切り拓こう

《キーワード》

済（Sai）スタート

3. 中期事業計画（2023～2026年度）**《テーマ》**

これからも地域を守る病院として、環境の変化に柔軟に対応する

《方針》

- ① 内部・外部環境に合わせた総合的な医療・在宅・介護サービスの構築
- ② 将来の事業継続に向けた経営基盤の確立
- ③ 地域との連携を図り、共存できるまちづくり
- ④ 生産性向上を意識した働きやすい職場環境へ整備

【3.今後の課題】

- ・不足している職種の充足により、早期に休床（20床）を解消させ、収益改善を図る。
- ・働きやすい職場環境の整備のため、人事制度の見直しや環境整備を実施する。